



2015年7月

発行：香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024
香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249
HP: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>
E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp



蒲生遺跡 (小豆郡小豆島町)

製塩に関する遺構が見つかる



▲かん水槽
800年
前約
800年
前の遺
構が見つ
かっています。こ
こでは中
世から近
世の遺構
面について
説明し
ます。こ

この遺跡は、小豆地域県立学校再編整備事業(小豆地区)に伴い、4月から調査を行っています。遺跡は海岸まで80mの地点にあります。

遺構面は2面あり、新しい面からは中世から近世(約750年前以降)、古い面からは弥生時代後期〜中世(約1、

の面からは塩田に関連する遺構が見つかりました。現代では塩は工場で作られますが、昔は海水を煮詰めて作っていました。普通に煮詰めるだけでは手間暇がかかるので水分を飛ばし、塩分濃度を上げたもの(かん水)を作り、これを煮詰めることにより、燃料を抑え、塩分の結晶化を早めました。今回見つかったのは、かん水を溜めておく施設(かん水槽)で、大小合わせて11基あります。8基は平面形楕円形長軸4.5m、短軸3.5m程度で、3基はその半分程度です。断面の形は逆台形で、深さが0.8m以上あります。本来は



▲完全な形で残っていたかん水槽
これは小豆島の塩作りを古文书に記してあり、当時の塩田の様子を知る貴重な文献です。こ

1m近い深さがあつたと考えられます。いずれも穴の底と壁に厚さ10cmほど粘土が貼りつけてあり、地下にかん水が浸透しないようになっています。11基のかん水槽のうち、完全な形で残っているのは2基のみです。うち1基は穴の底中央付近に30cm四方の平たい石があります。これは雨水やほこりなどからかん水を守る屋根を支える柱を据える礎石であると考えられています。

このように考える手がかりが小豆島町で保管されている延享三年(1746)に記された『塩浜稼方書上帳』という古文书にあります。これは小豆島の塩作りを古文书に記してあり、当時の塩田の様子を知る貴重な文献です。こ

れによるとかん水槽は「汐壺」と呼ばれており、「長三間横式間屋根柱一本二而四方梁二而皆茅葺、つまり長さ約6m短軸4m、一本柱で支えた四方に梁を持つ茅葺の屋根を持つ姿が描かれています。蒲生遺跡では上部構造は残っていませんが、この遺跡で見つかったかん水槽の姿とよく似ています。現時点では、作られた時期を示す遺物がかん水槽から出てきていないのはっきりした時期はまだ検討中です。また、文書の図は入浜式の塩田であったことがわかり、他にも遺構として、海水を撒く「浜」、浜と海を隔てる「堤」、塩分のついた砂を集める「塩漉穴」、かん水を煮詰める「塩竈」が存在すると考えられますが、この遺跡では確認できていません。対象地の外側にあるのではないかと考えられます。

今回の調査で、古くから小豆島を支える産業の一つであった塩業に関する遺構が見つかりました。このような遺構は県内でも事例がなく、良好な資料となります。今後、事例が増えていくことにより、更にその詳細が分かってくるようになることでしょう。

発掘現場から

『見つかった古墳時代の倉?』

岸の上遺跡 (丸亀市飯山町)



▲古墳時代後期(6世紀)の掘立柱建物
青色は溝を示しています

岸の上遺跡では平成25年度・平成26年度に引き続き、平成27年4月から発掘調査を行っています。これまでの発掘調査でも、古代南海道とそれに伴う建物群(8世紀)や、古墳時代後期(6世紀)の集落の跡などが見つかっています。

平成27年度の調査では、南海道の側溝の地点よりさらに北側で調査を行っています。地表下の中・近世を中心とした層の下からは、7世紀を中心とした水路と、それに伴う畦が発見されました。畦は水路の脇や、それらに直行するように作られているものもあり、当時の水田に水を導くための施設と考えられます。

また、その下からは、古墳時代後期(6世紀)の総柱建物を確認されました。梁行2間(3.7m)、桁行3間(4.5m)の建物と、梁行2間(3.4m)、推定桁行3間(約4.5m)の建物か、方形に巡る溝に囲まれた状態で見つかりました。建物の方向が一致し



▲7世紀の水田
畦畔は黄色で示しています

ていることや、それぞれが重複しないことから、同じ時期に2棟は存在していたものと考えられます。

6世紀までの県下の建物と比べても、岸の上遺跡の建物は柱を据える穴が大きく、建物の外側の柱のみでなく、内側にも床を支える束柱を持つていることが特徴です。また、居住域からある程度独立した場所にこの建物は建てられています。このような事例は主に7世紀以降に増加しますが、それ以前のものでは、岸の上遺跡のほかに香川県ではあまり例がありません。遺跡に残されていたのは建物の柱の跡のみで、それより上部の情報が残されていませんが、この建物は多くの重量物を貯蔵することができる倉庫ではないかと考えられます。古墳時代から古代への移り変わりの中で、この倉庫をどのように位置づけることができるか、今後検討していきたいと思えます。

夏休み子どもミュージアムのあそび



- 1. 展示『むかしのひとの陶器工作』展**
遺跡から出土した遺物の中には芸術作品と呼ぶにふさわしい豊かな感性で作られたものがあります。むかしのひととはどのような目に見えたものをかいたり、作ったりしたのでしょうか。発掘調査で出土したむかしのひとの作品と作られた背景を探ります。
日 時：平成27年7月21日(火)～8月31日(月) 9時～17時
場 所：香川県埋蔵文化財センター 第2展示室 観覧料：無料
*土・日曜日は休館
- 2. 遺跡の自由研究サポーターデスク**
身近にある遺跡を自由研究のテーマにしたい、という人はセンターへ。専門職員がアドバイスをします。
日 時：平成27年7月21日(火)～8月21日(金) 9時～17時
場 所：香川県埋蔵文化財センター 第2展示室
*土・日曜日は休館
- 3. 体験講座「古代をたいけんしてみよう」**
場 所：香川県埋蔵文化財センター
定 員：各10名(申し込み先着順)
- 4. 古墳見学「石清尾山古墳群」**
日 時：平成27年7月24日(金) 9時～11時30分
対 象：小・中学生
[A] ガラス玉を作る①
日 時：平成27年7月24日(金) 13時30分～15時
対 象：小・中学生
[B] アンギン編みでポシェットを作る②
日 時：平成27年7月31日(金) 9時～11時
対 象：小・中学生

平成27年度考古学講座のお知らせ

第1回 平成27年8月8日(土)午前10～12時 会場：香川県埋蔵文化財センター
『香川県の古代から中世の墓について』 蔵本晋司 香川県埋蔵文化財センター主任文化財専門員
定員30名(申し込み先着順)。

申込先 体験講座 香川県埋蔵文化財センターへ電話かメールでお申し込みください。
古墳見学 TEL 0877-48-2191 E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp
考古学講座 詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

